

肝付町脱炭素戦略ビジョンを策定しました

永野和行町長からのメッセージ

本町では、令和3年7月14日に錦江町、南大隅町とともに「2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指す自治体」としてゼロカーボンシティ宣言を行いました。

そして、具体的に「脱炭素社会の実現」に向けた取り組みを推進するために、この度「肝付町脱炭素戦略ビジョン」を策定しました。

本町が推進する脱炭素社会とは、自治体新電力会社「おおすみ半島スマートエネルギー(株)」を中心とした「エネルギーの地産地消」を柱とし、それにより得られる収益を地域産業の振興や雇用創出、安心安全なまちづくりなど、地域課題の解決につなげることでありと考えています。

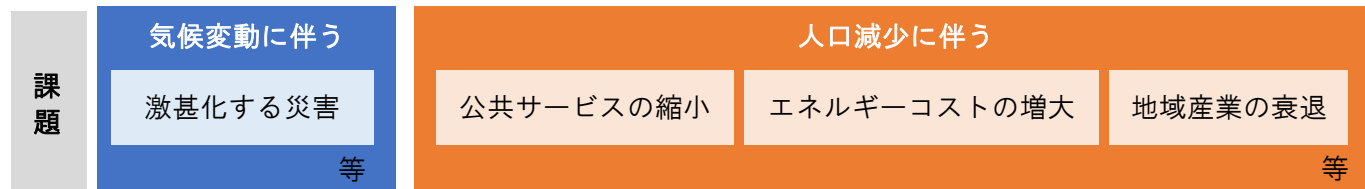
「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）」の目標を達成するためには、町民・事業所・行政が一体となって脱炭素社会に向けた活動を推進することが重要です。

今できる事を再確認し、「肝付町脱炭素戦略ビジョン」にある基本方針や目標達成に向けての取り組みをご理解いただき、子どもたちの未来を守っていきましょう。

肝付町長 永野和行

肝付町脱炭素戦略ビジョンの策定の背景

気候変動に伴い激震化する災害に対応しながら、あわせて人口減少社会において持続可能なまちづくりを進めるためには、「1）エネルギーを作る仕組みづくり」・「2）エネルギーを使う仕組みづくり」の2つを更に推進することが必要となっています。



町を取り巻く課題に対応し、肝付町として脱炭素に貢献するために…

1) エネルギーを作る仕組みづくり

人口減少社会において暮らし続けられるまちづくりを進めるためには、再生可能エネルギーの創出などエネルギーを作る仕組みづくりが有効です。

太陽光発電設備や風力発電設備が数多く進められており、これらのエネルギー資源を活用した町内発の産業創出を行うことができ、雇用の創出や町内の経済活性化にもつながります。

2) エネルギーを使う仕組みづくり

肝付町のエネルギー代金は、その多くが町外に流出しています。

ガソリンやガスなどの化石エネルギーを再生可能エネルギーに代替させ、化石燃料・熱供給相当分のエネルギー代金を町内経済に循環させれば、町内の経済活性に貢献できます。

エネルギーの地産地消を行うことは、停電時における備えにもなり、安心安全なまちづくりにもつながります。

肝付町脱炭素戦略ビジョンの基本方針

脱炭素の実現のみならず、エネルギーの地産地消による町内経済の活性化、自律型エネルギー導入による安心・安全なまちづくりの推進を図るために、次の基本方針を設定しました。

自治体新電力会社を核とした エネルギー地産地消型（地域でつくる・つかう）のカーボンニュートラルの実現 ～2050年カーボンニュートラルチャレンジ～

基本方針① 地球環境に貢献する脱炭素の取組を実行します。【環境】

2050年カーボンニュートラルの達成に向け、地球環境に貢献する様々な脱炭素施策を講じていき、あわせて資源の再生利用やリサイクルといった資源循環の促進・町民の環境意識の向上を図ります。

基本方針② エネルギーの地産地消による町内の経済活性化を目指します。【経済】

固有資源のエネルギー活用を通じて、地域経済循環の改善や地域産業への波及効果、エネルギー産業による雇用創出を目指しながら地域経済の活性化を目指します。

基本方針③ 自律型エネルギー導入による安心・安全なまちづくりを推進します。【社会】

地産地消モデルのエネルギー活用を通して、町内の防災機能の強化、エネルギー産業を活用した関係人口の増加を目指し、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

肝付町の温室効果ガス排出量の削減目標

脱炭素の主要な要素となる温室効果ガスの排出量について、2050年度カーボンニュートラルを目指し、段階的に削減目標を設定します。2030年度・2040年度における削減目標は、以下の通りとします。

2030年度	・2013年度比50%以上削減 →国全体の削減目標(46%)を上回る削減目標を設定する。
2040年度	・2013年度比65%以上削減 →2050年度(短期目標)と2030年度(長期目標)の中間地点として目標を設定する。
2050年度	・実質ゼロ →町内の温室効果ガスは8割以上削減し、技術革新等を踏まえても削減できない分は吸収源等を活用しながら、温室効果ガス排出量の実質ゼロを達成する。

※裏面は、肝付町で想定される「脱炭素社会の実現」に向けた取組みをイメージした図となります。自然環境に対する配慮及び事業の必要性・収益性等の検討を十分に行い、町民生活の充実・地域の活性化につながる取組みを選定・推進していきます。

【問い合わせ先】 肝付町役場 企画調整課 企画調整第二係 TEL:0994-65-8422

【脱炭素戦略ビジョンとは】

豪雨や猛暑など国内外で気象災害が激甚化・頻発化しています。要因である CO₂などの温室効果ガス排出量を減らし、炭素の排出をなくす「脱炭素」に向けた動きが国内外で進んでいます。このような脱炭素への要請の高まりに対応するため、町内における 2050 年に町内におけるカーボンゼロ(実質ゼロ)の達成に向けた方針を「肝付町脱炭素戦略ビジョン」としてとりまとめました。今後、肝付町では、一層の再生可能エネルギーの導入促進と、電力の地産地消、これによる新たな産業分野の振興、エネルギー学習等の推進を図り、エネルギーに関する住民との共通認識の形成と地域活性化、防災などの住民の安心・安全につなげることを目的に環境・社会・経済の3つの側面を意識した以下各種プロジェクトを住民・事業所・行政が一体となって実施することで、2050 年度カーボンニュートラルの実現を目指します。

肝付町の温室効果ガス排出量削減目標

2013 年度 (基準年度)	2030 年度	2040 年度	2050 年度
116 千 t-CO ₂	2013 年度比 50% (58 千 t-CO ₂) 以上削減	2013 年度比 65% (76 千 t-CO ₂) 以上削減	カーボンゼロ (実質ゼロ) 100% (116 千 t-CO ₂) 削減

・排出量と吸収量を均衡させ「実質ゼロ」とします。
・周辺市町村や都市部の脱炭素にも貢献します。



**肝付町
脱炭素戦略
ビジョン
【概要版】**

2022年1月

※本ビジョン概要版は(公財)日本環境協会から交付された環境省補助事業である令和2年度(第3次補正予算)二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(再エネの最大限の導入の計画づくり及び地域人材の育成を通じた持続可能でレジリエントな地域社会実現支援事業)により作成されたものです。

ビジョン本編や肝付町のエネルギーに関する情報等が気になる方は右のQRコードよりアクセスください!
【肝付町 HP・エネルギー関係】

